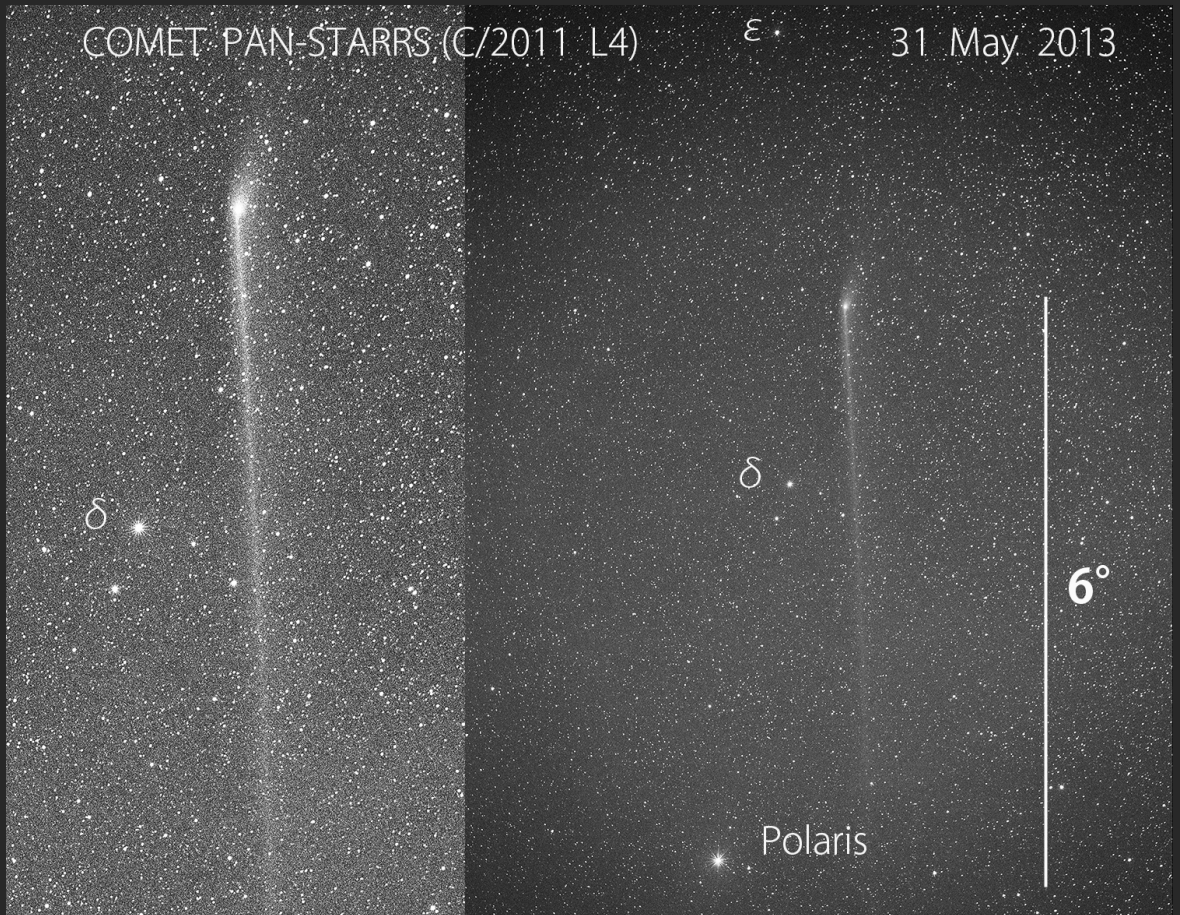


天文教育 7

2013

Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy



<年間特集> 彗星

<投稿> 車いす仕様 40 センチナスミス望遠鏡製作 /

日食の安全な観察をめざして ほか

天文教育普及研究会

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで6~10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで2~4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください(写真のみでも構いません)。
7. **情報コーナー(各種会合・イベントの告知など)**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日(奇数月下旬)にご留意ください。

・**締め切り**は1は原則として奇数月末日、2~7は偶数月15日。投稿先は post@tenkyo.net です。

・**広告掲載**を希望される方は事務局 (jimu@tenkyo.net) までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

本誌に掲載された記事は、1年後以降に当会ホームページ (<http://tenkyo.net/>) にてpdfファイルの形で一般に公開することを予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合はご投稿の際にその旨ご連絡ください。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますようお願いいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートがホームページ (<http://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします(執筆上の留意点なども記しています)。
- ・十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

去り行くパンスターズ彗星

撮影日時:2013年5月31日23時45~55分(日本時)
カメラ:Canon EOS5DMkIII、レンズ:Nikon Ai AF
Nikkor 180mm F/2.8D IF-ED、ISO-5000、30秒露出の
10枚を合成、Photoshop CS6でコントラスト調整
撮影地:群馬県渋峠

近日点(3月10日)通過直前より大量のダストを放出し、ミニ「ヘール・ボップ彗星」のような姿になったパンスターズ彗星。しかし、地球との位置関係が悪く、最盛期の頃が西の低空だった事もあり、一般の人々にとっては、見るのが難しい彗星の一つであった。しかし、このパンスターズ彗星が、5

月下旬に北極星の近くで非常に長い「アンチテール」を伸ばしていたことに気づいた天文ファンは少なかった様だ。この写真では6°以上の長さが写っている(通常のダストの尾は右上に向かって広がっている短い尾である)。ところが、この尾は彗星の軌道面から傾いていた。というのも、この尾は、通常の「アンチテール」ではなく、ネックライン構造と呼ばれる特殊な状況下でのみ観測できる尾であったからだ。ナトリウムの尾(近日点直後)、ネックライン構造(5月下旬から6月上旬)、パンスターズ彗星は、ただ1度だけの旅で、私たちに、すばらしい姿を見せてくれた。そして、いま、再び冷たいオールの雲へと旅立って行きます。

撮影と文：大西浩次